

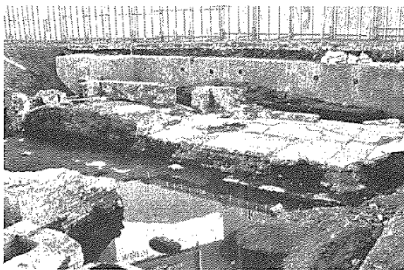
## 2016 神無月の夢 切抜「遺跡が語る震災 2~5(読売新聞,2016年9月14日~10月12日)」

読売新聞 2016年10月12日12版 文化欄に、「遺跡が語る震災 5」が掲載されたので、改めて5回シリーズの各記事を読み直してみました。ほとんどの遺跡は、人の生活、経済活動、文化活動などが何らかの事由によって途切れ、不連続となる瞬間が遺物、遺構として残った歴史的な記録です。今回の「遺跡が語る震災 1~5」は、地震と津波という自然災害の歴史がクローズアップされ、「災害は忘れた頃にやって来る」という教訓を我われに呼び覚まします。さらに、たとえ自然災害に遭遇したとしても、住み慣れた「ふるさと」は離れ難しという人間の営みもまた真理だということを物語っているように思えます。

防災、減災が叫ばれて久しい昨今、新たに発生する自然災害は激甚化しているような気がします。人間の営みは自然に委ねざるを得ませんが、生き抜く術は歴史の鑑から学び、尊い生命と財産を守り抜かなければなりません。

以下に、切抜「遺跡が語る震災 2~5(読売新聞,2016年9月14日~10月12日)」を再掲し、記録保存すると同時に、鑑としたいと思います。(文責 アーキジオ春秋)

### 読売新聞 2016年9月14日12版 文化欄「遺跡が語る震災 2」



▶ 関東大震災で被災した横浜銀行集会所の遺構。奥の床の左側が大きく盛り上がっている

首都圏の遺跡の発掘調査で最近、1923年の関東大震災の痕跡が相次いで見つかった。  
東京都文京区の小石川後楽園は、水戸藩徳川家の上屋敷の庭園として造られた。安政江戸地震(1855年)では、水戸学の思想家・藤田東湖が建物の下敷きになって圧死し、庭園内に顕彰碑が立っている。  
碑からわずか数十枚の場所まで7月、庭園整備に先立つ区教育委員会の発掘中に、地割れが発見された。調査面積が限られていたため、見つかったのは長さ1・2メートルほどだが、地割れを境に4~5メートルの段差ができていたのが確認できた。すぐ上に、大正時代も使われていた明治後半のレンガが大量に散乱していたことから、地割れは関東大震災によるものと特定された。  
水戸藩上屋敷の跡は、明治には東京砲兵工廠が置かれ、レンガはその建物に使われていたものだ。地割

## 遺跡が語る震災 2

### がれきの上に大急ぎの復興 関東大震災の痕 発掘相次ぐ

れの上には、レンガや土で厚さ約60センチの盛り土がされていた。地震で被災した建物のがれきを使って地面をかさ上げし、復興された様相が具体的に明らかになった。

一方、横浜市中区では、市役所新庁舎の建設予定地で昨年、関東大震災で倒壊した明治・大正時代の建物跡が発見された。1905年に建てられた横浜銀行集会所跡は、コンクリートで覆われた床面が大きく盛り上がり、変形し、地震の威力をまざまざと伝えた。

震災後、一帯は土を盛って整地した上に再び建物が立ち並んだ。今回、そうした復興時の建物の基礎も見つかった。興味深いのは、それ以前にあった建物の基礎を完全に撤去せずに建てられていたことだ。周辺は震災前、銀行や貿易商が軒を連ねた港町の中心部だけに、復興が大急ぎで進められた様子が見て取れた。

市は、これらの遺構の一部を、場所を移して保存することを決めた。倒壊した学校の基礎の一部は取り外して移設し、横浜銀行集会所の跡も部分的にはき取り、今後展示場所を検討する。庁舎計画も、そのままだが残せなかったが、「地域で起きた震災を市民にわかりやすく伝えるための大事な資料」(市教委生涯学習文化財課)として、部分的にも残す手法を選んだという。

関東大震災の痕跡が考古学的に調査されるのは、実はまだだ。近代は比較的新しい時代のため発掘の対象とならず、見過ごされることが多かった。坂詰秀一・立正大名誉教授(歴史考古学)は、「近い過去の地震でも、発掘された物と文献などを総合すれば、よりはっきり実態がわかる。最近見つかった遺構は、今後も関東大震災の遺構が出て来る可能性を示す」と話す。これを機に、遺構への関心の高まりが期待される。

(文化部 清岡央)  
(次回は21日に掲載予定)

「遺跡が語る震災3」

### 遺跡が語る震災 3

## 津波堆積物から地域の災害史



2011年3月11日、仙台市教育委員会文化財課長の白田博が、遼東半島の海岸線が激しく揺れた。津波が来る。長き遺跡の発掘調査を担当したのは、かつての頭をさしたのが、かつて出合った弥生時代の津波堆積物だ。

遺跡は、仙台市の海岸線、若林区にある高形遺跡で、弥生時代の水田跡を調査した。あの遺跡は、自分

も向かしなければ、という思いを持っていった。白田博は、約40年前の弥生時代の水田跡を調査した。白田博は、約40年前の弥生時代の水田跡を調査した。白田博は、約40年前の弥生時代の水田跡を調査した。

白田博は、約40年前の弥生時代の水田跡を調査した。白田博は、約40年前の弥生時代の水田跡を調査した。白田博は、約40年前の弥生時代の水田跡を調査した。

「遺跡が語る震災4」

### 遺跡が語る震災 4

## 城跡に残された「傷痕」



9年に大地震で崩れたと伝わる。城跡の中からは、土や瓦、土器など、木製の柱が大量に出た。木製の柱が大量に出た。木製の柱が大量に出た。

城跡の中からは、土や瓦、土器など、木製の柱が大量に出た。木製の柱が大量に出た。木製の柱が大量に出た。

城跡の中からは、土や瓦、土器など、木製の柱が大量に出た。木製の柱が大量に出た。木製の柱が大量に出た。

### 遺跡が語る震災 5

## 復興の象徴心の支え



平野の向こうに青い海がまぶしい。恐ろしい地震の後、細文人はこの地を離れなかつた。この遺跡も理由がわからない。

復興の象徴心の支え。復興の象徴心の支え。復興の象徴心の支え。

復興の象徴心の支え。復興の象徴心の支え。復興の象徴心の支え。